

石丸哲平さん

(会社員・オタクイベント)

地球の裏側で復活したオタク魂

「好きこそ物の上手なれ」「芸は身を助く」と言うが、要はオタクは強いということだ。以前、オタクの響きには、批判的な感じがあったが、いまは違う。会社員・石丸哲平さんも、イジメなどにあって、つらい思いをしていた。だが、「ロボ石丸」として、オタク道を突き進んで見えてきたものとは？

情報に飢えていた幼少期

——会社員をしながら「ロボ石丸」の名前で活動をしているとお聞きしています。どのような活動をされているのでしょうか？

わかりやすくひとことと言うと「オタクイベント」です(笑)。僕は、子どものころから「ロボットアニメ」や「特撮」「昭和カルチャー」「ゲーム」が大好きで、大人になってもそれが続いているんです。アニメや特撮が生活の一部になっているといっ

も過言ではありません。

普段はオンラインや店舗での決済サービス、チケット発券サービスなどを提供している会社で会社員として働いているのですが、「ロボ石丸」という名前を使ってロボットアニメや特撮作品などの映画の上映イベントの企画・制作や司会などをしたり、あとは玩具メーカー様へのアドバイザーのようなこともしたりしています。

こう話すと、ちょっとかつこよく聞こえるかもしれませんが、イベントは「ファンのみんなで集まって楽しもうぜ!」というノリですし、メーカー様へのアド

バイスもアドバイザー契約をしているようなわけではなく、ファン代表・ユーザー代表のような感じで意見させていただいています。はっきり言って趣味の延長で、自分がやりたいこと、楽しみたいことをやっている(笑)。それに尽きます。

「ロボ石丸」という名前ですが、現在の活動を始めるきっかけとなった、アニソン(アニメソング)好きの人たちを集めたイベントの司会をしたときに使い始めた



●いしまる・てっぺい 静岡県出身。東海大学文学部文明学科中退後、ボランティアとしてブラジルへ。2006年、株式会社メタップスベイメントに入社。イベント・司会・漫談DJなど「ロボ石丸」として活動中。

ものです。元はというと、当時流行っていたmixiで使っていたハンドルネームです。mixiのコミュニティでは、クリエイターさんたちが本名を盛り込んだハンドルネームで活動していることが多かったので、それにあやかるうと考えて箔づけのために「ロボ石丸」という名前を使い始めました。

——ロボットアニメや特撮などに興味を持つきっかけは何かあったのですか？

僕は六歳ごろまで、父の仕事の関係で沖縄の西表島に住んでいました。いまはどうなのかちょっとわかりませんが、当時の西表島はテレビのチャンネル数がめちゃくちゃ少なくて、たまに送られてくる『テレビマガジン』とか『てれびくん』などの雑誌が、僕にとっ

て数少ない情報源でした。本屋さんに行けば普通に置いてあるありふれた雑誌なのですが、とても貴重なものだった。ただの情報雑誌ではありませんが、僕にとってはテーマパークと同じようなものだったんです。そのころはもちろんインターネットや電子書籍なんていう便利なものもありませんでしたからね。

——アニメや特撮などの情報に飢えていたわけですね。